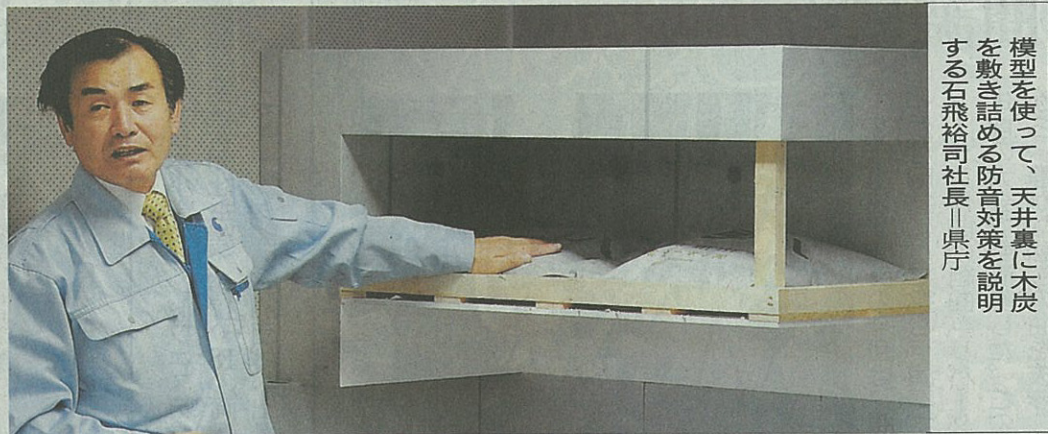


# 木炭で生活音静かに



模型を使って、天井裏に木炭を敷き詰める防音対策を説明する石飛裕司社長（県庁）

出雲市の建築会社「出雲土建」が手がける湿気をよく吸う特殊な木炭に、騒音を和らげる効果もあることが、島根大との共同研究で分かった。建物の天井裏に敷き詰める工法で国の認定も受け、上階の生活音が気になる集合住宅などの防音対策で

**出雲土建**

期待されている。

出雲土建は廃材の再利用法を研究するため、2001年から大学と連携している。スギやヒノキなどの針葉樹の廃材を砕いて特殊な方法で焼くことで、適度な湿度を保ち、断熱と蓄熱効果がある木炭「炭八」を開発

し、02年から製造している。これまでに市内で建設した集合住宅を中心に約800戸の天井裏に置いた。

防音の効果は偶然分かった。入居者から「上の階の音が気にならない」という声が多かったことから、10年5月に市内の3階建てマンション2棟で天井裏に炭八を入れた袋を敷き詰めて、階下の音を測る実験をした。

その結果、騒音が8～11ㇼ小さくなることが分かった。人間の耳では約半分くらいの音に感じるという。

1平方ㇼあたり15ㇼ入りの袋（約900円）を6個並べたときが、最も防音効果が高かった。

今年6月には、床の衝撃音を遮る特別な工法として国の認定を受けた。炭八を敷き詰めることで、構造上に問題がなければ、コンクリートの床の厚さを約3～5ㇼ薄くできるという。

石飛裕司社長は「10年以上前に建設された集合住宅の多くは今より床が薄く、生活音が問題になっている。炭八を使えば、簡単に防音対策ができる」と話している。（藤家秀一）

**床の衝撃音遮る効果で国認定**